

経営学部個人別研究テーマ

(五十音順)

職名・氏名	教授 阿部 克己
研究テーマ	経営意志決定におけるファジィ理論の応用 (2) NPV、AIPR、財務諸比率評価への事例
研究テーマ英文	Fuzzy Logic Applications for Managerial Decision Making
キーワード	NPV、ファジィ数、AIPR、AIPHO
概要	本研究は、ファジィ数を経営分析にどのように活用するかを事例で示す。以下がその適用事例である。 ①リスク調整割引率法による NPV 計算への三角型ファジィ数の適用。 ②収益性・生産性分析のための指数体系 AIPR システムへのファジィ数の適用。 ③経営指標評価への台形型ファジィ・メンバーシップ関数の適用例。
関連する研究業績	1) 阿部克己：「経営意志決定におけるファジィ理論の応用 (1) 階層化意志決定法 AHP の活用」, 明星大学経営学研究紀要, 第7号、25-44, 2012 2) 阿部克己：「小集団組織の意識構造診断のための設問設計とファジィ評価」, 工業経営研究学会誌, 67-72, 2004 3) 阿部克己：「Productivity Management based on Productivity Science for Self-Recreating Organization in a Brazilian Multinational Company」, Third International Conference on Production Research America Region, 1-21, 2006

職名・氏名	特任教授 浅川 正彦
研究テーマ	産業経済の発展と観光の変遷
研究テーマ英文	Transition of tourism under development of industry and economy
キーワード	観光、余暇、大衆化
概要	<p>私はこれまで実務家として観光ビジネスに従事してきた。そうした経験を総括するとともに、今後の観光ビジネスの発展に与えしうる有意義な示唆のある知見を見出すために、主として以下のような問題に関して、歴史と理論の両観点から観光ビジネスに関する理解の再構築を図りたいと考えている。</p> <p>人類の移動現象は遊牧民の遊牧であったり、商人たちの交易、宗教的巡礼などにその起源を求めることが出来る。その多くは生活の維持に欠かせぬ行為にあり危険との背中合わせであり、「travel (旅行)」の語源は苦行・苦難を意味するラテン語に由来する。これに対して観光を意味する「tour」という語はギリシャ語の tornos (= 旋盤・ろくろ) に由来しており、これは目的地への移動から出発点に戻ってくるという意味を含んでいる。このような「出発点に戻ってくる」というスタイルの「tour (観光)」がどのように生じたのか、歴史的に体系立てた理解が確立されているとは言えず、観光ビジネスの基盤をより強固なものにする上で、そうした研究の蓄積が不可欠であると考えられる。そうした問題意識の下で、ここでは①蒸気機関の登場以降の移動手段の飛躍的な進歩が観光ビジネスの発展にどのように寄与したのか、②産業革命後の余暇の増加が観光ビジネスの発展や観光形態の変化(たとえば観光行動の目的や手段の多様化)にどのように影響を及ぼし、また③観光の大衆化によってそれが労働者の勤労意欲の向上にどのように寄与してきたのかという点について歴史的な分析を行う。</p>
関連する研究業績	なし

職名・氏名	客員教授 荒井 徹
研究テーマ	大学改革における大学間連携
研究テーマ英文	Inter—university collaboration in the context of University reform
キーワード	大学改革、産学・大学間連携
概要	いわゆる大学改革では、大学の機能の再構築やそのための大学ガバナンスの充実・強化が求められている。本研究では、それらを実践する手段としての「大学間連携」に焦点を当て、地域における産学連携の中で、大学間連携が果たした役割を過去の実例をもとに検証し、今後の大学間連携の在り方を模索する。
関連する研究業績	なし

職名・氏名	准教授 石橋 貞人
研究テーマ	人的資源管理、組織行動、同族経営
研究テーマ英文	Human resource management、Organizational behavior、Family business
キーワード	経営資源としての「ヒト」
概要	<p>① 人的資源管理の諸機能の統合について、特に賃金制度と人事考課制度を統合した報酬制度の制度設計および高年齢者雇用など雇用の多様化に対応した人的資源管理についての研究</p> <p>② 人事考課における評価誤差、職業性ストレスのワークライフバランスへの影響、人事評価尺度開発、コンピテンシーモデルの開発、組織市民行動など、組織行動に関する構造方程式モデリング</p> <p>③ 「永続的で健康的な家族と経営の繁栄」実現のための同族経営モデルの提唱</p>
関連する研究業績	<p>1) 石橋貞人：「人的資源管理」，DTP 出版，2010</p> <p>2) 石橋貞人：「評価の精度と分布に関する評価誤差の関係：人事評価における評価誤差分析モデル（第3報）」日本経営工学会『日本経営工学会誌』Vol.63 No. 1, 1-8, 2012</p> <p>3) 石橋貞人：「中小企業における事業承継モデルの開発」ファミリービジネス学会『ファミリービジネス学会誌』Vol.2, 5-16, 2012</p>

職名・氏名	特別教授 上田 俊昭
研究テーマ	企業の社会的責任とアカウンタビリティ
研究テーマ英文	Corporate Social Responsibility and Accountability
キーワード	持続可能性 ステークホルダー 説明責任
概要	本研究では、企業とは誰のためのものかなどを考察したうえで、企業の社会的責任行動についての実態とその利益について、事例研究（自動車産業）によりながら検討する。さらには社会や環境に与える自らの決定や活動を透明にすることの課題と方向性について論じながらも、いまや社会的責任は企業にとって必須であり、それこそが企業の競争力を左右するものであり、結果的に「持続可能性」の問題にまで関連してくることを主張している。
関連する研究業績	1) 上田俊昭(2013)「CSR 経営とアカウンタビリティ」『明星大学経営学研究紀要』第8号、65-82. 2) 上田俊昭(2013)「CSR 実践の現状と将来」『社会関連会計研究』第25号予定（日本社会関連会計学会・「スタディグループ」中間報告）.

職名・氏名	特任講師 翁 理香（おきな あやか）
研究テーマ	キャリア教育
研究テーマ英文	Life-long learning and Career studies
キーワード	キャリアデザイン、キャリアカウンセリング、若手社員育成
概要	現在の大学教育は、学生の質保証という観点において、従来の専門性教育に加えて社会人基礎力（対人コミュニケーション、問題解決）を兼ね備えた組織の中で活躍できる人材育成が重要な役割である。その実現のためには、学生がキャリア形成、キャリアデザインを自主的かつ継続的に行うことを可能とする教育環境を整えることが重要となる。本研究では、企業（社会）が学生に求める要件の一つとして「自立的なキャリア形成」が出来る学生をいかにして育成するのか、また社会に出た後、自立的にキャリアを形成し続けるために必要なことは何かについて研究する。その成果として、キャリア教育を通して大学・企業双方が成長できるモデルを示すことを目的とする。
関連する研究業績	なし

職名・氏名	准教授 片野 浩一
研究テーマ	価値共創マーケティング
研究テーマ英文	Value co-creation marketing
キーワード	コ・クリエーション、ユーザー・イノベーション
概要	<p>価値共創マーケティングの概念を以下のフレームワークで実証研究する。</p> <p>① ソリューション型価値共創の事例を研究する。</p> <p>② コ・クリエーション型価値共創の事例を研究する。</p>
関連する研究業績	1) 片野浩一：「マス・カスタマイゼーション戦略から個客経験の共創へ」, 明星大学経営学研究紀要, 第7号, 45-58, 2012

職名・氏名	准教授 兒玉 公一郎
研究テーマ	ラディカルな技術変化への適応メカニズム：写真プリント業界の事例研究
研究テーマ英文	Searching the Mechanism of Adaptation to Radical Technological Change: A Case Study of Photo Printing Business
キーワード	イノベーション、デジタル化、写真プリント
概要	<p>本研究では、一つの産業や業界が大規模な技術変化にどのように対応していくのかという問題について、写真ビジネスの事例を通して検討を行う。より具体的には、写真プリント業界（DPE）を取り上げて、この業界が写真のデジタル化というラディカルな技術変化にどのように対応し、そのことがビジネス上の存続にどのように影響を及ぼしたのかという問題について、その適応メカニズムを解明することを目指す。</p>
関連する研究業績	<p>1) 兒玉公一郎(2013)「先行者と後発者の相互利用—先行者優位性の再検討—」『組織科学』Vol. 46, No.3, 掲載頁未定.</p> <p>2) 兒玉公一郎(forthcoming)「新技術の普及プロセス—ラボ業界へのデジタル・ミニラボの普及の事例を基に—」『組織科学』（掲載号未定）.</p>

職名・氏名	特任准教授 児玉 桜代里
研究テーマ	大学生の進路未決定に影響を与えるパーソナリティ特性
研究テーマ英文	The influence of personality traits on career indecision for undergraduate students.
キーワード	キャリア教育, 自己効力, パーソナリティ特性
概要	<p>大学新卒者の進路未決定理由には、経済状況に左右されない本質的な側面もある。進路未決定者の探索行動には、パーソナリティ特性が影響する。本研究は、大学生のキャリア支援を目的とするものである。キャリア教育の可能性について、介入により操作可能な能動的概念として、進路未決定の抑制に関与する以下のアプローチを行う。</p> <p>① Bandura の自己効力論から、個人的達成、代理学習、言語的説得、情緒的喚起の4つの情報源。</p> <p>② Krumboltz の計画的偶発理論による、好奇心、粘り強さ、柔軟性、楽観性、リスクテイキングの5つの行動特性。</p>
関連する研究業績	1)児玉桜代里：「ホスピタリティ産業における対人サービス適性に関する研究 - ホスピタリティ行動に影響を与えるパーソナリティ特性とその影響 -」, 立教ビジネスデザイン研究第8号, 57-75, 2011

職名・氏名	教授 佐々木 達也
研究テーマ	中小企業によるニッチ市場創出の成功要因
研究テーマ英文	Research on success factors for SMEs creating nich markets
キーワード	中小企業 競争戦略 ニッチ市場
概要	ニッチ市場創出に成功している中小企業について事例研究をおこない、その成功要因を戦略および組織の側面から明らかにする。
関連する研究業績	「多摩地域中小企業の事例研究——京西テクノス」 明星大学『経営学研究紀要』第8号、2013年

職名・氏名	准教授 谷井 良
研究テーマ	ベンチャービジネスにおけるイノベーション・ロードマップの研究
研究テーマ英文	Study of the innovation roadmap in venture business
キーワード	ベンチャービジネス, イノベーション普及, ロードテスト
概要	<p>本研究は、ベンチャービジネスの成否を判断する新たなロードテストの提示を目的としており、以下の点が研究の焦点である。</p> <p>① ベンチャービジネスの基盤にあるイノベーションの評価基準を明確化する。</p> <p>② イノベーション普及をベースとして、ベンチャービジネスの成長プロセスとロードマップ研究を深化させる。</p> <p>③ ベンチャービジネス開始時の判断テストとなる新たなロードテスト・モデルを提示する。</p>
関連する研究業績	<p>1) 谷井良 [2010] 「MOT 概念を導入した技術イノベーションの可能性－魔の川・死の谷の打破－」中京学院大学研究紀要第 17 巻第 2 号, 27-36。</p> <p>2) 岸川善光編, 谷井良他 [2008] 『ベンチャー・ビジネス要論<改訂版>』同文館, 第 8-10 章 (181-246)。</p> <p>3) 岸川善光編, 谷井良他 [2004] 『イノベーション要論』同文館, 第 2-7 章 (29-182)。</p>

職名・氏名	准教授 寺本 高
研究テーマ	ショッパー・マーケティングに関する研究
研究テーマ英文	Shopper Marketing
キーワード	ショッパー, 情報先端層, ブランド・コミュニケーション
概要	<p>買い物客（ショッパー）の中でも、他人に積極的に情報発信（クチコミ）を行う情報先端型ショッパーに着目し、彼らの意思決定プロセスや店頭でのコミュニケーションへの反応状況について実証分析を行っている。</p>
関連する研究業績	<p>1) 寺本高：「情報先端層による新製品の話題発信と購買意思決定－新製品飲料サンプリングをケースに」, 日本商業学会第3回全国研究報告会, 2012年12月</p> <p>2) 寺本高：「新製品についての話題と購買意思決定の関係」, 吉田秀雄記念事業財団『AD STUDIES』, 第43巻秋号, 16-20頁, 2012年11月</p> <p>3) 寺本高：『小売視点のブランド・コミュニケーション』, 千倉書房, 全247頁, 2012年10月</p> <p>4) 寺本高, 西尾チヅル：「ブランド・ロイヤルティの形成におけるブランド・コミットメントの長期効果」, 日本商業学会『流通研究』, 第14巻特別号（第2・3合併号）, 78-97頁, 2012年9月</p> <p>5) Teramoto, T: Reaction of Information Leaders to Promotion When Switching to a New Product, <i>2012 Global Marketing Conference, Korean Scholar of Marketing Science</i>, July 2012</p> <p>6) Teramoto, T, A. Shimizu: Prediction of Trial Purchase of New Product Based on Purchase History of Market Mavens, <i>The Society of Business & Commerce, Keio University, Fy12, No.1, pp.1-15, May 2012</i></p> <p>7) 寺本高：「マーケットメイブンの新製品スイッチ購買時のプロモーション反応」, 日本市場創造学会『市場創造研究』, 第1巻第1号, 29-33頁, 2012年3月</p> <p>8) 寺本高：「消費者の業態選択行動と小売店頭におけるブランド・コミュニケーションの課題」, 流通経済研究所『流通情報』, 第495号, 41-48頁, 2012年3月</p>

職名・氏名	准教授 中嶋 教夫
研究テーマ	①企業評価 ②Balanced Scorecard
研究テーマ英文	Company Valuation Balanced Scorecard
キーワード	経営分析 管理会計 企業評価 BSC
概要	① 企業の本源的価値を会計数値と財務会計情報を用いて測定するためのモデル構築を目的とした研究を行う。 ②Kaplan, Norton の提唱している Balanced Scorecard(BSC)を活用して、企業の総合的なマネジメントシステムの構築を行う。
関連する研究業績	1) 中嶋教夫「IT マネジメントへの Balanced Scorecard の活用」 明星大学経営学研究紀要, No. 6, 2013, pp. 101-108 2) 中嶋教夫「管理会計における Balanced Scorecard の意義とその活用実態に関する研究-Kaplan の理論と事例研究を通して-」2010.3 青山学院大学(学位取得論文) 3) 中嶋教夫「企業価値重視の経営とバランスト・スコアカード(BSC)の融合 - A 社の事例を中心に -」日本経営分析学会, 年報経営分析研究, 2006, No. 22, pp. 85-92.

職名・氏名	特任教授 平塚 大輔
研究テーマ	労働組合活動に関わる専従者のキャリア観と必要な能力
研究テーマ英文	Labor union Officer Carrier and necessary ability
キーワード	労働組合 専従者 キャリア形成
概要	日本社会のなかで一定の役割を担ってきた労働組合については、その研究自体が限られてきたが、本研究では産業構造が激変する中で労働組合に求められる機能と役割を再定義した上で、労働組合を牽引する組合役員に必要な資質や能力を明らかにする。 本研究では、組合役員経験者や組合役員などの労組関係者等にインタビュー調査及びアンケート調査を実施するが、これら結果の分析により、労働組合の機能や役割に関する課題や労組役員に求められる資質に関する課題が浮き彫りになるはずである。この検証を踏まえ、時代の要請に合致した労組や労組役員のあり方について提言を行うことで、結果的に健全な社会の形成に資する研究としたい。
関連する研究業績	なし

職名・氏名	教授 光成 豊明
研究テーマ	教育用3次元モデルの開発
研究テーマ英文	Development of the three dimensional model for CG education
キーワード	図形処理, CG, 教育
概要	<p>本研究は、以下の機能を持った図形処理教育用教材の提供を目的とするものである。</p> <p>①平行掃引処理および回転掃引処理による3次元モデル作成のプロセスをPC上で体験的に学習可能とする。</p> <p>②三面図の学習や立体空間の認識に寄与する。</p> <p>③作成した3次元モデルを具現化するために展開図機能を設け、作成した3次元モデルが具体的に分かりやすいものにする。</p>
関連する研究業績	<p>1) 光成豊明：「教育用3次元モデル作成ソフトウェア」, 日本教育情報学会第28回年会論文集, 298-299, 2012</p> <p>2) 光成豊明：「教育用3次元モデル作成ソフトウェア」, (社)日本機械学会関東支部ブロック合同講演会論文集, 57-60, 2009</p> <p>3) 光成豊明：「文科系を意識した教育用3次元モデル作成ソフトウェアの開発」, (社)日本設計工学会平成20年度春季大会研究発表講演会講演論文集, 75-78, 2008</p>

職名・氏名	教授 森屋 一訓
研究テーマ	中小企業の経営戦略と経営課題、それに対する地域金融機関の果たしうる役割についての研究
研究テーマ英文	
キーワード	中小企業経営、地域金融機関、コミュニティビジネス
概要	<p>本研究は中小企業を以下の3つの側面より捉え中小企業経営への参考に資することを目的とする。</p> <p>①活力ある中小企業の経営戦略および事業承継等の課題について事例を検証し中小企業経営への参考に資する。</p> <p>②地域金融機関の地域貢献・地域産業支援等の活動によってもたらされる地域中小企業の創出、成長の実際を捉え、結果として地域金融機関の経営へどのような効果をもたらしているか研究する。</p> <p>③ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスは社会的必要性の大きさに対し財務の健全性を確保している事業者は少ないと思われる。財務の健全性を確保しつつ社会的なビジネスとして成り立つ事業者の経営戦略の事例を検証しソーシャルビジネス・コミュニティビジネス経営への参考に資する。</p>
関連する研究業績	「多摩地域中小企業の事例研究——京西テクノス」 明星大学『経営学研究紀要』第8号、2013年

職名・氏名	教授 山口 幸三
研究テーマ	現代企業と財務報告制度
研究テーマ英文	Enterprises and Financial Reporting Systems Today
キーワード	会計基準、時価評価、
概要	現代企業の財務報告制度をめぐる様々な問題を取り上げ、それらの問題に関わる企業会計の理論と制度について研究している。その際、日本の財務報告制度が大きな影響を受けている国際会計基準と米国財務会計基準をも研究対象としている。
関連する研究業績	<p>1) 山口幸三：「時価評価論争における混迷」『明星大学経営学研究紀要』第7号(2012年3月)</p> <p>2) 山口幸三：「国際会計基準における時価評価の疑義」『明星大学経営学研究紀要』第6号(2011年3月)</p>

職名・氏名	教授 若木 宏一
研究テーマ	有料放送における番組評価に関する研究
研究テーマ英文	A study of program evaluation in pay television
キーワード	有料放送 顧客満足度 視聴率
概要	<p>有料放送事業のビジネスモデルは視聴顧客を獲得し、その顧客を維持し続けることにより成立する。したがって放送する番組は映画や演劇のように顧客に購買の対象とされなければならない。地上波では「視聴率」を番組評価の基準としている。広告（CM）の到達度をスポンサーに求められるからである。では有料放送ではどうか。大手の有料放送では地上波同様V R社の機械式視聴率を導入しているが、その数字は毎月の加入者数、解約者数と相関がとれていない。つまり有料放送のビジネスモデルを支えるための評価指標になっていないのである。番組購入や製作には大きな資金が必要とされている。有料放送事業者は零細な事業者が多いので番組調達に失敗は許されない。今後有料放送を評価する新しい番組評価法の開発が望まれる。</p>
関連する研究業績	<p>1) 「有料放送顧客の消費者行動研究」、若木宏一、映像情報メディア学会技術報告、2012</p> <p>2) 「有料放送契約者におけるコンテンツ消費に関する考察」、若木宏一、映像情報メディア学会技術報告、2010</p> <p>3) 「有料放送顧客におけるコンテンツ消費行動に関する研究」、若木宏一、高知工科大学紀要7巻1号、2010</p>